

宮城県感染症発生動向調査情報

平成29年11月9日発行

— 2017.10.30～2017.11.5—第44週—

1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾病	保健所							患者数	宮城県(含む仙台市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼		患者数	累計	第41週	第42週	第43週	第44週
水痘	3 0.60	2 0.20	1 0.20			2 0.40	1 0.50	12 0.44	21 0.36	867				
流行性耳下腺炎			1 0.20					2 0.07	3 0.05	570				
百日咳									0 0.00	0				
感染性胃腸炎	28 5.60	37 3.70	9 1.80	7 3.50	6 2.00	5 1.00		143 5.30	235 3.98	12,251	◎	◎	◎	◎
手足口病	11 2.2	30 3	9 1.80	7 3.5		32 6.4	5 2.5	72 2.67	166 2.81	7,111	◎	◎	◎	◎
伝染性紅斑					2 0.67		1 0.50	4 0.15	7 0.12	201				
突発性発しん		7 0.70	1 0.20			2 0.40		6 0.22	16 0.27	1,404	○	○	○	レ
ヘルパンギーナ	2 0.4	2 0.2			2 0.67	2 0.40		5 0.19	13 0.22	1005	レ			
インフルエンザ	4 0.50	13 0.87	6 0.75		1 0.20	2 0.25		24 0.55	50 0.53	27,463			○	◎
咽頭結膜熱	1 0.20	6 0.60						3 0.11	10 0.17	1,465				
流行性角結膜炎		3 1.00						1 0.17	4 0.33	133				
急性出血性結膜炎									0 0.00	1				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28 5.60	10 1.00	4 0.80	4 2.00	2 0.67	24 4.80		30 1.11	102 1.73	6,253	◎	◎	◎	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)									0 0.00	3				
無菌性髄膜炎									0 0.00	1				
マイコプラズマ肺炎			1 1.00	1 1.00	1 1.00	2 2.00		4 0.80	9 0.75	257				
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0 0.00	0				
RSウイルス感染症	8 1.60	3 0.30	2 0.40	1 0.50	2 0.67		3 1.50	10 0.37	29 0.49	2,262	◎	◎	◎	○
感染性胃腸炎(ロタウイルス)									0 0.00	50				
拡張疾病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	11	5	4	4	2	2	14	◎: 流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○: 発生または流行について、今後の情報に留意 レ: 発生が少なくなっている傾向					
	川崎病													
	不明発しん症							3						

※今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 1例

2. 全数報告疾病

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核
仙台管内 男性2名、女性1名(第43週)

3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)
登米管内 女性1名
腸管出血性大腸菌感染症(O74)
栗原管内 男性1名

4類感染症: つつが虫病
仙南管内 男性1名
レジオネラ症
塩釜管内 女性1名
仙台管内 男性1名

5類感染症: アメーバ赤痢
仙台管内 男性1名
侵襲性肺炎球菌感染症
大崎管内 男性1名(第43週)
水痘(入院例)
仙台管内 男児1名※
※男児は6歳未満

3. 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 【定点把握対象疾患】

[手足口病]
仙南、石巻、仙台管内で警報継続中

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

報告なし

～仙台医療センターウイルスセンター～

	中間報告		
	確定 第41週採取分 (10.9～10.15)	第42週採取分 (10.16～10.22)	第43週採取分 (10.23～10.29)
インフルエンザウイルスB型(山形系統)	0件	0件	1件
RSウイルス	2件	2件	3件
ライノウイルス	3件	0件	0件
パラインフルエンザウイルス(1型)	1件	1件	1件
パラインフルエンザウイルス(4型)	1件	0件	1件

* RSウイルス、パラインフルエンザウイルスの分離が多い状態が続いています。

4. 今週のコメント

【水痘】

水痘帯状疱疹ウイルスの初感染時に起こる発疹性の病気で「みずぼうそう」とも呼ばれ、9割の人が9歳以下で発症するといわれています。感染力の強いウイルスで、主にウイルスが含まれる患者の水疱液に接触することで感染します。初感染の一般的な症状としては、発熱とともに皮膚表面の紅斑が現れ、水疱が徐々にかさぶたになって治癒するという経過を示します。ただし、このウイルスは症状が回復した後も神経節に潜伏するという特徴があり、体調不良などで免疫能が低下した際に帯状疱疹として局所的に水疱が再発することがあります。水疱には多量のウイルスが含まれているため、水痘ワクチン未接種者等への感染防止に注意が必要です。

【インフルエンザ】

仙台医療センターウイルスセンターで第43週にB型インフルエンザウイルスが分離されました。これから流行の季節を迎えるため、日頃から、うがい・手洗いを励行するとともに、咳エチケットを徹底し、感染拡大の予防に努めましょう。

宮城県定点週報告対象疾病の推移

